

カリヨン

CARILLON

日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学

P2-3 … 皇太子さまの本学ご訪問

P4 …… **学生インタビュー** 修士課程1年 作左部 香子

P5 …… 本学の国際交流について
赤十字スタディツアー 海外看護演習

P6-7 …… 看護学部で養護教諭一種免許状が
取得できるようになります

P8-9 …… 学生による学会・研究会等での発表

P10-15 …… 1年間を振り返って～イベント報告～

P16 …… CARILLON INFORMATION

2018



○カリヨンとは（フランス語：Carillon）
教会の塔などに吊り下げられる音程を異にする多数の鐘。16世紀以来、特にフランドル地方（現フランス領）で発達し、自動装置を持つものもある。赤十字の理念より「人道・博愛・奉仕」を3つの鐘に投影した本学のシンボルとして、平成8年の短大開学時に設置された。これにちなんで本学学園祭も「カリヨン祭」と呼んでいる。

No.07

看護学部授業の一環として行われた秋田駒ヶ岳の登山(P15)

皇太子さまの本学ご訪問



大塚理事長・安藤学長のお出迎えを受けられた後、短期大学の介護実習室で、介護福祉学科2年生の学生たちが、ベッドに寝ている人を車いすに移したり、シーツを交換したりする介護演習の様子を視察されました。皇太子さまは学生に「いちばん気をつけることは何ですか?」「演習はどうですか?」などご質問されました。

2017年
7月12日

7月12日(水)午前、皇太子さまが本学をご訪問されました。これは秋田県立武道館において開催された「第53回献血運動推進全国大会」へ日本赤十字社名誉副総裁としてご出席のために来秋されたことを機に、ご訪問が実現したものです。



お帰りには介護福祉学科1年生の学生たちに「学校生活はいかがですか?」「どうしてこの学校を志望されたのですか?」「どんな介護福祉士になりたいですか?」「素晴らしい夢に向かって頑張ってくださいね」などお声がけいただき、学生たちは貴重な機会に感激していました。

ありがとうございました //



学生インタビュー

大学院修士課程助産学分野 1年

日本赤十字秋田看護大学看護学部卒業

さくさべ たかこ
作左部 香子さん



今、本当にやりたいことができるのは、
高校・大学時代があったからこそ。
今の時間を大切に過ごして欲しいですね。



私は大学在学中から地元秋田への就職を念頭に置き、より専門性の高い助産学の技術や知識を身に付けて、秋田県の少子化・児童虐待や産科に関わる地域医療格差などの現状についても学びたいと思っていました。学生のうちからボランティア活動や実習などを通して、地域と密接に関わることができるこの大学院ならば、将来的に仕事にもよりスムーズに経験を結びつけることができると考え、進学を決めました。

本学の魅力は、秋田県で唯一の総合周産期母子医療センターである秋田赤十字病院



での実習や、日本でも有数の助産院での実習など実習の環境が整っていることです。日々の講義も座学だけにとどまらず、現場で医師や検査技師に実演していただきながら、説明してもらう場面も多く、東洋医学やアロマテラピーといったお産ならではの知識も得ることができます。

大学4年間では、主にPBL学習を通してグループワークの仕方や、看護の基礎となる考え方を学ぶことができました。そこで培った基礎は、その後の考え方やコミュニケーションにも生かされています。また、病院だけではなく保育所やグループホーム

など、さまざまな場所での実習を通して乳幼児から成人・老年まで幅広い領域で患者さんと関わってきたことで、自分の視野を広げることができました。将来、どこで何がしたいのかを、具体的に考えることができるようになりました。

今はこの恵まれている環境で、レベルの高い助産技術や知識を身に付け、妊婦さん、褥婦さんに安心してもらえるようになることが1番の目標です。また、私は大学生のころから、県内の子どもの虐待の状況に関心を持ってきました。全ての親子が離れることなく、幸せに生活できる未来を目指し、助産師として妊娠期から子どもの虐待予防を推進し、妊婦のフィジカル面だけでなく、メンタルや育児環境面まで幅広くサポートできる助産師になりたいと思っています。そういった面から秋田を支えたいと考えています。

そのため、講義の振り返りや自主的な助産技術練習をして確実に知識・技術を身に付けています。さらに自主的に学びを広げ、最近では妊婦・褥婦さんのケアに活用するため、アロマテラピーのアドバイスをする資格を取得しました。秋田赤十字乳児院でのボランティア活動は大学時代から継続しており、さまざまな理由により親と離れて暮らす子どもたちのサポートをしながら、秋田県の子育ての現状の一端を見せていただいています。地域で行われている虐待や養子縁組に関するシンポジウ



ム・講演会などには、積極的に参加し、常に最新の情報を得るようにしています。

大学院に進学し、今までで1番「勉強・研究が楽しい」と感じています。ただ、自分が本当にやりたいことに向き合えるようになったのは、今までの高校・大学生活において、勉強や趣味、部活動など、その一瞬一瞬に精一杯取り組んできたからこそだと思っています。たくさんの経験の中で多くの人と関わり、自分と向き合ってきたことが進路の選択に大きく影響しています。これから看護や助産を目指す皆さんも、まずは今の時間を大切に過ごしてもらいたいと思います。



本学の国際交流活動について



赤十字スタディツアー

看護学部の学生4名が赤十字発祥の地であるスイスのジュネーブと北イタリアを訪問し、国際赤十字のしくみや活動を学びました。



赤十字の父アンリー・デュナンが救護活動を行ったカスティリオーネでは、「赤十字国際博物館」を訪問し、館長からイタリア統一戦争最大の激戦となった「ソルフェリーノの戦い」と赤十字の誕生との関係について説明を受けました。

ジュネーブでは、赤十字国際委員会(ICRC)と国際赤十字赤新月社連盟(IFRC)の本部を訪問し、日本人職員から紛争地や災害における救援活動について学びました。

海外看護演習

東南アジアのラオスを訪問し、開発途上国の保健・医療の現状と現地で活動する援助機関の活動について学びました。



首都ビエンチャン近郊のパークグム郡病院やドンクワイ村などを訪問しました。郡病院では、院内の活動の他、首都圏内の総合病院や村のヘルスセンターとの関係について学びました。ドンクワイ村には1泊2日で村民の健康管理について聞き取りを行いました。

看護学部で養護教諭一種免許状が 取得できるようになります

看護師資格取得のための学習をベースとして、教育職員としての教職教養、養護教諭の専門性を身につけたプロフェッショナルな「養護教諭」の養成と、健やかな子どもの教育に貢献できる、人間性豊かな人材の育成を目指します。



養護教諭（保健室の先生）とは

保健室を拠点とし、学校における教育活動を通じた心身の健康づくりによって、子どもの発育・発達を支援する教育職員であり、学校保健活動の推進にあたって中核的な役割を果たしています。近年、メンタルヘルスやアレルギー疾患などの子どもの現代的な健康問題の多様化、さらにはいじめ・児童虐待などの早期発見・早期対応を図るために、養護教諭に寄せられる期待はますます大きくなっています。



児童・生徒の皆さんから見た養護教諭は、どんなふう映っているのでしょうか。看護学部2年の学生が授業の中で振り返った「保健室での思い出」を紹介します。

「看護とは何かを考えるときにいつも養護教諭の先生を思い出す。
寄り添うことの重要性を教えてくれた先生は私の目標である。」

「保健管理」「保健教育」

保健室での応急処置等は限られているために、けがの予防や感染予防などの呼びかけや冬季の湿度管理等に努められていた。また、生徒一人ひとりの健康状態を把握していると感じた。保健室を利用した時は、より深く寄り添ってくれて食事や生活についてのアドバイスももらった。

応急処置の理由をはっきり教えてもらったので、漠然とした不安が緩和されて落ち着いて休養することができた。

毎月発行される「保健だより」は、その時期に注意しなければならない病気や対策など見やすくまとめられていた、そのおかげで、私は手洗いなどを自主的に行うようになったし、食べ物も好き嫌いを減らすように努力するようになった。

「健康相談」

どの先生からも自分を理解してもらえず、辛い気持ちを抱えていた時に、保健室を訪れた。親身に話を聞いてもらえ、抱え込まなくてもいいことを教えてもらい、初めて自分の気持ちを汲み取ってもらえて嬉しかったし、安心することができた。

思春期はさまざまな悩みを抱えた生徒が多い。声をかけて相談する環境づくりをし、その内容からスクールカウンセラーや担任、部活動顧問等に働きかけて、コーディネーターの役割を果たすことで解決した問題もあった。

いじめにあっていたときに、親に心配をかけたくなくて話せなかった。思い切って保健室に行って先生に打ち明けたら、「辛かったね」と優しく声をかけてくれて、それまでの悩みが一気に解放された。勇気と元気、「生きる力」もらった。

「保健室経営」

小学校でいじめられる教室にいるのが辛い時期に助けてくれたのが保健室だった。自分を受け入れてくれる居場所が学校になれば、私は不登校になっていたと思う。

いじめで教室に居場所がなかった悲しみや恐怖から唯一の心が休まる場所が保健室だった。先生は私の話を親身になって聞いてくれた。

「保健組織活動」

保健委員をしたことから、養護教諭の先生は学校にいる生徒、教師が健康に過ごせるよう環境づくりや健康管理をしていることに気づいた。学校はただ勉強や部活動をする場所と思っていたが、そのことに気づいて、感謝の気持ちで一杯になった。



養護教諭の先輩からのメッセージ

赤十字の看護大学は全国に6つありますが、養護教諭一種免許状が取得できるのは、日本赤十字秋田看護大学だけです。秋田県内でもこの大学が唯一の養成機関であり、この4月からは養護教諭を目指す学生の皆さんと出会えることに、大きな喜びと責任を感じています。将来への希望を持って入学される若い皆さんとともに情熱をもって学び続け、学校現場と教育行政の経験を活かして、より効果的な教育手法を考えて実践していきたいと考えています。

養護教諭の前身とされる「養護訓導」が置かれて77年、秋田県内のすべての養護教諭で構成する秋田県養護教諭研究会は設立70周年を迎えます。これから養護教諭を目指す皆さんがより良い教育者になれるように、また大学が現職の養護教諭の皆さんにも貢献できる教育研究機関になるように、養護教諭の先輩の先生方は期待とともに熱く応援して下さると思います。



看護学部 非常勤講師
おざのりこ
小笹典子 先生

本学卒業生からのメッセージ



ちばみゆ
千葉美侑さん 秋田県仙北市出身
出身高校：盛岡白百合学園高等学校

日本赤十字秋田看護大学看護学部を2017年3月に卒業。同年4月より北海道教育大学養護教諭特別別科へ進学し、養護教諭一種免許状を取得。2018年4月より秋田県内に養護教諭として勤務予定。

養護教諭を目指そうと思ったきっかけは？

きっかけは、「医療面から、子どもと関わる仕事に就きたい」という理由でした。看護大学で、小児看護学や公衆衛生看護学などのさまざまな専門分野を学ぶ中で、子どもたちの心身の発達を見守り、夢を紡ぐ「養護教諭」の素晴らしさをより深く実感し、挑戦してみようと思いました。

どんな養護教諭になりたいと思っていますか？

子どもたちの“自己肯定感”を高められる養護教諭になりたいです。日本の子どもたちは、諸外国の子どもたちと比べて、自分に自信がない子が多いと言われていました。私は、子どもたちの自尊心を高められるように、性に関する教育において、「自分は、生まれてきてよかった」と思えるような命の尊さを指導したり、子どもたちの今を「認める」関わりをしたりしていきたいと考えています。

また、養護教諭として、日常生活における子どもたちとの関わりはとても重要です。私は、表情やしぐさ、何気ない会話から、子どもたちが声に発することのできないSOSに気がつき、活力と笑顔を再び取り戻せられるような存在になりたいです。そのためには、個性を意識し、一人ひとりの子どもに適切な対応方法を日々、見つけていきたいと考えています。

平成30年度より養護教諭一種免許状が取得できる教育課程を開設する日本赤十字秋田看護大学に期待することは？

子どもたちと触れ合う時間をたくさん設けて頂くことに期待したいです。養護について学ぶ中で、発達段階に適した言葉の言い換えの難しさを痛感しました。それは、実際の関わりを通して、身に付くものです。時間的な制約など難しい面もありますが、後輩たちのためにも今後期待したいと考えています。

養護教諭を目指す後輩たちや、高校生にメッセージをお願いします

この大学に入学した頃は、自分が養護教諭になるとは想像もしていませんでした。その頃は、都会で、看護師として多くの経験を積んで地元に戻ってきたいと思っていました。しかし、看護大学時代の講義や実習などを通じて、たくさんの専門分野を学び、「私が本当になりたいのは保健室の先生だ」と明確な夢を見つけることができました。私が養護教諭になろうと進路を決めたのは、4年生の夏でした。看護系大学という恵まれた環境の中で、たくさんの人と関わり、多くのことを学ぶ中で、さまざまな進路の中から自分の本当になりたいものを見つけてください。応援しています!!!

看護学部担当教員からのメッセージ

養護教諭一種免許課程設置の趣旨、課程の特色・人材の育成について

秋田という少子高齢多死社会における地域包括ケア体制の構築、更には2035年を見据えた保健医療政策に対する「秋田という地からの貢献」をより強く推進するために、養護教諭一種免許課程の設置に至りました。赤十字の「人道・humanity」の理念を基調とし、次世代を担う子どもたちが健康を保持、増進する能力を獲得できるように、多岐にわたる支援を継続的に、関係職種、地域、家庭と協働し、子どもたちの成長・発達の保持・増進を支えることができる能力を備えた養護教諭を養成します。



なんぶひろひと
看護学部 南部泰士 准教授

養護教諭を目指す皆さんへ

本学では平成30年度入学生より、4年間の学生生活の中で定められた単位を取得し卒業要件を満たすことによって、看護師国家試験受験資格とあわせて、新たに養護教諭一種免許状（選択制）が同時に取得できるカリキュラムといたしました。教職課程に関わる教員陣は本学をはじめ、秋田県内の各大学に所属しており、「教育」に関して先駆的に活動している教育・研究者です。それぞれの教員が連携を密にし、「オール秋田」の教員陣で講義・演習を実践いたします。

私自身、学生時代に恩師から受けた「子どもは未来である」という忘れられない言葉があります。子どもの健やかな成長を育むための「次世代育成支援」を実践する養護教諭とともに目指しませんか。基礎学力が全国トップクラスの秋田県の地で、養護教諭・看護職として「子どもたちの現代的な心身の健康課題」に対応でき、健やかな成長を育むための次世代健康推進・育成支援を志す皆さまのご入学を、心よりお待ちしております。一緒に頑張りましょう。

学生による学会・研究会等での発表

日本災害看護学会で 活動を発表しました



8月25日～26日に鳥取県倉吉市で開催された、日本災害看護学会第19回年次大会・交流集会にて、「大学生が自ら考える冬季の災害ボランティア活動～厳冬期の災害時を想定した「赤十字みんなの防災ウィンターキャンプ」～」と題して、本学学生4名が発表しました。

発表はとても緊張しましたが、防災キャンプについて知っていただくことができました！防災キャンプで「楽しく」学ぶことで防災スキルを高めしていくことができますので、今後是非参加していきたいと思います。

(佐々木 樹乃さん、坂本 愛祐美さん)



発表学生：佐々木 晴菜さん（看護学部2年）
谷山 有希さん（看護学部1年）
坂本 愛祐美さん（介護福祉学科1年）
佐々木 樹乃さん（介護福祉学科1年）
教職員：廣渡 太郎さん、佐藤 紘子さん、及川 真一さん



2017AKITA 防災キャンプフェス

9月23日～24日に本学を会場に「2017AKITA防災キャンプフェス」が開催されました。この企画は防災をテーマに、いつ起こるかわからない災害に備え、防災教育とアウトドア術を楽しみながら、命をつなぐ知恵を身につけることを目的に、秋田魁新報社や本学のほか秋田県内赤十字各施設などで構成する実行委員会が主催し、看護学部・介護福祉学科の学生や教職員も運営に参加しました。2日間で約8,000名が来場し、「防災キャンプ」を体験してもらうことができました。





沖縄科学技術大学院大学
(沖縄県恩納村)

学生による学会・研究会等での発表

第14回全国大学コンソーシアム 研究交流フォーラムに参加しました

10月7日～8日に沖縄科学技術大学院大学(沖縄県恩納村)で開催された第14回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムに参加しました。本フォーラムでは大学教育の発展のために、全国の大学コンソーシアムの取り組みや研究成果発表などを行っています。今回は分科会「災害時に活躍できる学生ボランティア育成の現状と展望—京都、秋田における防災教育の取り組み事例から—」の報告者として、本学の学生と教員が「秋田県の学生による『赤十字みんなの防災キャンプ』と地域連携の取り組み」を発表しました。



発表学生：佐藤 亜梨沙さん(看護学部1年)
茂木 栞さん(介護福祉学科1年)
教職員：廣渡 太郎さん、及川 真一さん

学生の立場から、全国の大学の先生方に防災キャンプの魅力や身につく力について、経験を交えながらお話をさせていただきました。少しでもありましたが、地元の琉球大学の学生さんともお話する機会があり、防災キャンプについて知っていただく貴重な機会となりました。(茂木 栞さん)



平成29年度イベント・活動報告！ 1年間を振り返って

スポーツで汗を流したり、ボランティアを通じて友情を深めたり、防災について深く学んだり…。そこには日々充実したキャンパスライフを送る学生たちの姿があります。授業や実習だけではなく、1年間を振り返ります。



宣誓式 4月28日

宣誓式は、対人援助のプロフェッショナルである看護・介護福祉を志す者として、自らの目標を再認識し誓いを新たにするセレモニーです。学内の学びを経て本格的な施設実習に臨む、看護学部の3年生と介護福祉学科2年生が参加しました。



赤十字運動月間イベント 赤十字の仕事体験しよう！ 赤十字キッズタウン2017



赤十字キッズタウン2017 5月28日

5月の赤十字運動月間に合わせて、秋田県内の赤十字施設は合同でイベントを開催しています。今回は、本学体育館・学生ロビーを会場に、子どもたちが赤十字救護服を着る救護体験や、学校、医師・看護師、献血業務、保育士などの仕事体験で、赤十字で行っているさまざまな事業を知ってもらい、盛りだくさんの内容で行いました。





台北医学大学 訪問歓迎

6月1日



本 学の提携校である台北医学大学栄養学部の趙振瑞学部長ら7名が本学を訪問し、新たな友好協定（覚え書き）の締結を行いました。

これまでに同学の学生たちが本学を訪問し、秋田赤十字病院をはじめ市内の医療・保育・福祉施設で研修を行い、本学の学生と一緒に秋田竿燈まつりを見学するなど、交流を深める活動をしています。



初夏のオープンキャンパス

6月24日

初 夏のオープンキャンパスを開催しました。模擬講義や体験学習を実施し、個別相談コーナーや学食無料体験も好評でした。秋田赤十字病院ドクターヘリ見学体験は、毎回多数の参加者を集める人気のイベントですが、フライトナースによる説明を聞いたり、装備を間近で見学したりと、地域の医療について理解を深める機会となりました。

来年も
待っています!!





スポーツフェスティバル 7月2日・11日

バレーボール、バスケットボール、野球、サッカーなど、多くの学生たちが体育館やグラウンドで汗を流し、互いの友情を深めました。



学校見学・進学相談会 8月9日

夏 休みの時期に初めて開催しました。お盆前ということもあって、秋田県内のほか、岩手・山形・福島・千葉・兵庫の各県からも参加がありました。体験型のオープンキャンパスとは異なり、個別相談と校内見学が中心でしたが、アンケートでは「知りたいことに丁寧に答えてもらった」「じっくり質問することができた」など、参加者の高い満足度がうかがえました。



訓練中

災害救護訓練 9月20日

災害救護訓練は、救護に必要な基礎的な知識と技術を習得することを目的に毎年1回開催されています。学生たちは、トリアージ、搬送、応急処置、避難所支援、傷病者等の役割を担当し、それぞれの知識と技術について学びを深めました。



秋のオープンキャンパス 10月14日

学びを体験できるイベントが盛りだくさんのオープンキャンパス。防災に関する体験学習や模擬授業、キャンパスツアー、隣接する秋田赤十字病院ドクターヘリ見学体験や説明会を実施。たくさんの受験生や保護者の皆さんにご参加いただきました。





7/31 桜美林大学 井下千以子先生



6/8 藤原記念病院 三浦一樹先生



1/11 秋田県立医療療育センター 渡部泰弘先生



9/20 秋田大学 岡田恭司先生



12/22 日本赤十字看護大学 佐々木優美先生



2/1 大阪大学 佐藤浩章先生



7/13 看護学部教授 夏原和美さん
看護学部助教 佐藤紘子さん



11/10 入試・広報課長 近藤香さん



11/10 入試・広報課 佐々木律成さん



6/8 経理課経理係長 渡部忠保さん



10/12 FD・SD委員会委員長
事務局参事 南部直宏さん

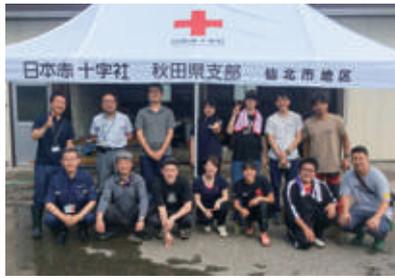
FD・SD研修会

我 国の各大学にはFD（授業内容や授業方法の改善を図るための組織的な研修）とSD（大学運営に必要な知識や技能を身につけ能力資質を向上させるための研修）の実施が義務づけられています。本学では教育研究活動の充実と大学運営の高度化を目指してFD・SD研修会を毎月開催し、様々なテーマから教職員の資質向上に取り組んでいます。

卒業研究発表会 11月15日~17日

看 看護学部4年生が卒業研究発表を行いました。卒業研究では、看護における課題解決に取り組む基盤を身につけるために、各自が関心のある研究テーマについて、具体的な研究計画書を作成して研究を進めます。卒業研究に取り組む中で、論文の論理構成、文体や表記などの論文の書き方を身につけ、ポスターを作成して研究成果を発表します。





災害ボランティア活動 7月28日~29日・8月3日

7月22日から23日にかけて秋田県を襲った記録的な大雨災害では、幸い人的被害は発生しなかったものの、農作物や建物に大きな被害が発生しました。本学の「赤十字防災ボランティアステーション」所属の学生と、学生を支援する「赤十字地域交流センター」の教員は、被災者の一刻も早い日常生活への復帰支援のために、秋田市社会福祉協議会および仙北市社会福祉協議会と協働で災害ボランティア活動を実施しました。



卒業課題研究発表会 2月5日

介護福祉学科の卒業課題研究は、研究的態度や能力を身につけるために行われる授業です。高齢化がすすむ中で、介護福祉士の質的向上が求められています。高齢者や障害のある人たちのいのちを守り、生きる力を強め、生活の質を高めるため、専門的な知識・技術を確立していくことが大切です。この授業では、学生がテーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究に取り組み、その成果について全員が発表を行います。



登山実習 8月5日・6日

看護学部「健康科学・レクリエーション実技Ⅱ」の授業では、心身の健康の向上と集団生活での社会性と自律心の涵養を目的に、スキーまたは登山を行っています。この日は1泊2日の日程で秋田県仙北市秋田駒ヶ岳で登山を行いました。天候にも恵まれて素晴らしい眺めでした。



本学で開催するイベントのご案内

高校生・保護者のための

Open Campus

2018.3.17 10:30~
(SAT)

2018.7.22 10:30~
(SUN)

2018.9.22 10:30~
(SAT)

2019.3.16 10:30~
(SAT)



看護学部



介護福祉学科

実施予定
内容

- ドクターヘリ見学
- 個別相談
- 先輩たちと語ろうコーナー
- キャンパスツアー（学内見学）
- 学部学科紹介と教育内容
- 学生募集・入学試験の説明
- 模擬授業（講義や体験）



平成30年度入学試験の主な変更点について

看護学部

- 本学で独自に作成する試験による「一般入学試験」を新たに実施します。
- 大学入試センター試験利用入学試験（前・後期）の及び一般入学試験の「面接」は実施しません。
- 推薦・社会人・学士等入学試験では応用力試験に代えて「小論文」の試験を行います。

介護福祉学科

- 介護福祉学科で新たに「AO入学試験」を実施します。
- 一般入試／大学入試センター試験利用入試は「英語」及び「面接」は実施しません。
- 自己推薦入試Iの実施時期をこれまでの2月から「11月」に変更します。

本予告は、現高校2年生（平成31年4月入学予定者）に対する内容となっており、現高校3年生（平成30年4月入学予定者）とは異なりますので、御留意ください。また、本予告の内容は現時点のものであり、今後の状況により変更となる可能性もあります。変更が生じた場合は、本学ウェブサイト等でお知らせいたします。

本学へのご寄付のお願い

本学は1996年の開設以来、赤十字の「人道：Humanity」の精神を受け継ぐ、東北地方唯一の高等教育機関として、看護教育・介護福祉教育を行なってきました。現代社会や地域のニーズに応える新たな大学像を目指し、高大連携授業や出前講座の実施、大学院等を活用した学び直しの拡充などに、今後も邁進してまいります。本学の教育・研究の更なる発展、学習環境の充実及び学生生活支援の拡充、地域防災教育活動推進などのため、皆様の温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

■ 寄付の手続き

(1) 個人の場合

- ① 電話にて経理課にご連絡ください。寄付申込書等の必要書類をお届けいたします。また、ご不明な点は、何なりとお問い合わせください。
- ② ゆうちょ銀行（郵便局）から直接お振り込みされる場合は、下記のゆうちょ銀行（郵便局）からの寄付の手続きについてに記載の口座をお願いいたします。

(2) 法人の場合

電話にて事務局（部）経理課にご連絡ください。寄付申込書等の必要書類を送付いたします。また、ご不明な点は、何なりとお問い合わせください。

■ 寄付の単位

(1) 個人の場合

一口 1,000円
※ただし、1,000円未満でも受け付けています。また、何口でもご寄付いただけます。

(2) 法人の場合

一口当たりの金額は設けておりません。

左記の詳細は
本学公式サイトを
ご覧ください。

■ ゆうちょ銀行（郵便局）からの寄付の手続きについて

【大学（看護学部）へのご寄付】 ゆうちょ銀行（郵便局） 口座記号・番号： 02210-9-142099 加入者名： 日本赤十字秋田看護大学
【短大（介護福祉学科）へのご寄付】 ゆうちょ銀行（郵便局） 口座記号・番号： 02200-1-122694 加入者名： 日本赤十字秋田短期大学

【留意事項】

- a) 「払込取扱票」の「通信欄」に「平成〇〇年度日本赤十字秋田看護大学寄付申込」または「平成〇〇年度日本赤十字秋田短期大学寄付申込」とご記入ください。
- b) ホームページ等のご芳名掲載希望の方は、「通信欄」に「掲載希望」をご記入ください。また、寄付の使途にご希望のある場合も、ご記入ください。（例：図書購入）

【申し込み・問い合わせ先】

事務局 経理課
電話：018-829-3014
FAX：018-829-3030
E-mail：keirika@rcakita.ac.jp